

自給率向上へ！ 持続的農業経営の確立を 生産コストをカバーする価格保障実施を

(一般質問 前号からのつづき)

井之川博幸議員はまず、第4次、第5次総合計画の農業振興策で本市の農業は発展しているのかと投げかけ、この10年間の本市農業における指標の推移を質しました。



廃屋と耕作放棄地

市長の答弁では、農家数、農業就業人口、経営耕地面積、農業粗生産額すべてで、大幅に減少し、耕作放棄地が倍以上に増加するなど、本市の農業が衰退していることを裏付けました。

地域経済の発展のためにも農業の再生を

井之川議員は、輸出頼みの経済政策が失敗し、経済立直しのために内需拡大が必要といわれているとき、本市の地域経済の発展のためにも「農業の立直し」がどうしても必要で、すべての農業者が安心して農業にはげめる政策として、「生産コストをカバーする農産物の価格保障（不足払い）制度」の実施を強く求めました。

市長は、「市単独実施は厳しいものがある」として、制度は否定しませんでした。市では実施できないとの姿勢を示しました。

井之川議員は、農業再生のためには一番大事な政策であり、これなくしては農業の再生はできないことを強く訴えました。また、農業への「所得保障制度」についても、実施を求めました。

市長は、「所得保障制度の市単独実施も厳しい」と答えました。

井之川議員は、せめて現在実施されている中山間地域等直接支払制度に、市が上乗せをすることを求めましたが、確答はありませんでした。

農業後継者・新規就農者に支援を

つぎに井之川議員は、農業後継者不足が慢性化していることを指摘し、農業後継者と新規就農者が増加するよう支援策を求めました。

市長は、「後継者個人に対しての支援制度はない。新規就農者は、平成19年度17名、20年度12名で、市としての奨励金制度はない」などと答え、「今後研究していく」と述べました。

大空襲を生き抜いて…戦争体験を聞く会



空襲体験を語る大脇登代子さん(右端)でした。

沼小学区9条の会が主催

6月20日、西倉内町公民館において沼小学区9条の会が主催で、「第2回戦争体験を聞く会～『戦火の中で』出版記念会」が開催され、市内外から50数人が参加し大盛況

戦争体験では、大脇登代子さんが「東京大空襲を生き抜いて」、綿貫藤江さんが「前橋大空襲の中で」と、それぞれ歴史に残る大空襲を自身の体験でリアルに語ってくれました。



戦争体験を語る綿貫藤江さん(中央奥こちら向き)

参加者は、一般市民が戦争の犠牲になっていく悲惨さや平和の大切さを身近な人の話で聞くことができ感動していました。

薄根・川田地区でも署名進む

21日、乗合タクシー存続を求める署名運動に日本共産党の薄根支部と川田支部が取り組み48人の賛同署名が集まりました。

薄根支部では6人が参加し、パーメガ宣伝をしながら2人1組となり2組が署名活動で訪問しました。夫と相談してからという1人を除き、すべての人が快く署名に応じてくれました。

川田地区では、この署名ならもっとどんどん地域を回るように要請されました。



2009年6月28日 No.481

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料